

Title	地場ゼネコンにおける長時間労働問題の分析と解決案：株式会社田中組の事例研究
Sub Title	
Author	田中, 純也(Tanaka, Junya) 坂爪, 裕(Sakazume, Yū)
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2024
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2024年度経営学 第4248号
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002024-4248

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾大学大学院経営管理研究科修士課程

学位論文（ 2024 年度）

論文題名

地場ゼネコンにおける長時間労働問題の分析と解決案
—株式会社田中組の事例研究—

主 査	坂爪 裕 教授
副 査	稲田 周平 准教授
副 査	大藪 毅 専任講師

氏 名	田中純也
-----	------

論文要旨

指導教員	坂爪裕	氏名	田中純也
(論文題名) 地場ゼネコンにおける長時間労働問題の分析と解決案—株式会社田中組の事例研究—			
(内容の要旨) 本研究は、地場ゼネコンが直面している長時間労働問題に焦点を当て、その原因分析と解決策を提示したものである。研究対象として筆者の事業承継企業の青森県十和田市に拠点を構える地場ゼネコンである株式会社田中組を取り上げ、フィールドワークを通じて長時間労働の構造的要因を分析する。 予備調査として田中組 建築部の勤務実態を調査したところ、直近の勤務状況においても大幅な時間外労働が発生していることが判明した。追加調査として 2024 年 6 月から 8 月にかけて計 8 件の現場同行調査を実施した。その結果、勤務時間の大きな割合を書類作成業務時間に費やしていることが明らかになった。 これに対し、河野ら(2007)の間接事務作業の改善フレームワークを基礎としながら、業務の目的に着目した新たな改善フレームワークを提案することで長時間労働環境をより効率化することを考えた。このフレームワークは、(1)業務目的の特定、(2)必要最小限の業務プロセス設計、(3)実務レベルでの検証、(4)リスク対策の検討、(5)目的追加の評価という 5 つのステップで構成される。従来の業務改善手法を基礎としながら業務の目的という視点を加えることで、最適な業務設計を行うことができる点が本フレームワークの特徴である。 事例研究として、田中組における出来高報告書と工事原価報告書の作成業務に本フレームワークを適用した。これらの書類は部署横断的に使用され、特に若手社員の業務負荷が高い重要書類である。フレームワークの適用により、作業工程を 26 工程から 5 工程に削減し、業務期間を約 22 日から約 3-5 日に短縮できる可能性が示された。 本研究を通じて、業務プロセスの目的を明確化し、目的に焦点を当てた業務設計を行うことで、既存の複雑な業務を簡素化できることが実証された。一方で、現状の複雑な業務プロセスには従業員の経験や知見が凝縮されており、これらを考慮せずに一方的な改善を進めることは避けるべきという示唆も得られた。このことから、本フレームワークの実務への適用においては、まずは従業員が課題意識を持つ業務から着手し、段階的に展開していくアプローチが有効であると考察する。			